

オープンサイエンスの時代の 図書館の役割

東京大学 大学院総合文化研究科教授
藤垣裕子

オープンガバナント

- ・ 政府情報の積極的な公開と新たなウェブ技術を活用した市民参加を促進する動き

＜意義・目的＞

- ① 情報公開による行政の活動の透明性向上とアカウンタビリティの確保
- ② 重要な課題への市民参加の促進
- ③ 情報共有によるさまざまな組織との協働

公文書と省庁が独自に保存→NDLが保存・アーカイブ化→国民がいつでも参照可。

日本の特徴：オープンガバナントからオープンデータが独立。
市民参加はおきざり

オープンサイエンス

RRI (Responsible Research and Innovation) : Horizon2020

研究およびイノベーションプロセスで社会のアクター（具体的には、研究者、市民、政策決定者、産業界、NPOなど第三セクター）が協働すること

・参加・オープンアクセス・ジェンダー・倫理・科学教育

open innovation/open access/open space

public engagement in research and innovation process,

mutual learning/mutual discussion/mobility

new-institutionalization

日本の特徴：オープンアクセスが独立。

参加・協働がおきざり

図書館の役割

- ・アーカイブの作成
- ・デジタル化の充実

プラス？

- ・参加促進のためのネットワーキング
- ・参加促進のためのしくみづくり
CTA (Constructive Technology Assessment)
ELSI

情報技術と出版システム

17C publication

19C 学会単位のジャーナル共同体(例：化学会誌など)

20C 分野ごとのレビュー雑誌（例：Physical Review）

1960年代 プライスによるScience of Scienceの提唱

SCIのデータベース化

マートンによるSCIの重要性の指摘

インパクトファクター等指標の開発

2000年代 WWWの普及

Web of Science

2013 博士論文の電子化

2015 専門誌講読料の図書経費問題

2018 現在

出版システム

ふつうなら市場原理が働いてつぶれるはずの出版社が何故維持されているのか？

評価システム：個人：業績上げたい。

人事：本数×ジャーナルの格

省庁間：文科→財務

本来であれば「公共財」であるべき知識がお金を払わないと読めない？

本来であれば「公共財」であるべき知識をたくわえて一般市民に提供 = NDLの役割

出版システム

人工知能業界の反逆：機械学習研究者2000人がNatureの新しい有料論文誌への投稿を拒否

<https://jp.techcrunch.com/2018/05/03/2018-05-01-thousands-of-academics-spurn-natures-new-paid-access-machine-learning-journal/>

ネイチャー誌の「論文ビジネス」に反対 AI研究者らがボイコット

<https://forbesjapan.com/articles/detail/21159>

出版システムは、研究の進め方や評価にも変革をもたらす
今の出版モデルからどう脱却すればいいのか？

(NDL支部図書館70周年記念シンポジウム総合討論)

「印刷文化」の慣習からの脱却？